

令和3年度野生鳥獣に関する感染症対策としての鳥獣保護管理方針検討会（第3回）
議事要旨

開催日時

令和3年3月2日（水） 14:00～16:00

開催形式

Web 会議

委員（五十音順、敬称略。○は座長）：

岩丸 祥史	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門 動物感染症研究領域 ウイルスグループ グループ長補佐
五箇 公一	国立研究開発法人国立環境研究所 生物多様性領域 生態リスク評価・ 対策研究室室長
橋本 渉	公益社団法人日本動物園水族館協会 感染症対策部長
○羽山 伸一	日本獣医生命科学大学獣医学部 教授
前田 健	国立感染症研究所獣医科学部 部長

オブザーバー

農林水産省消費・安全局動物衛生課

議事

- (1) 生物多様性保全の観点から対応を優先すべき感染症（案）について
- (2) モデル事業（案）について
- (3) その他

要旨

会議は非公開で行われた。

議事（1）生物多様性保全の観点から対応を優先すべき感染症（案）について

リスク評価を通じて抽出された生物多様性保全の観点から対応を優先すべき感染症（案）については特段の異議等は示されず、限られた情報に基づく暫定的な評価であることを改めて確認した上で、モデル事業の選定と事業計画の検討・立案に活用することについての了承が得られた。

委員よりは、イヌジステンパーウイルスを含むモルビリウイルスについての情報提供があったほか（前田委員）、ネコの感染症については愛玩動物における発生状況の記載を現実に即して修正すべきとの意見があった（岩丸委員）。また、当該対応を優先すべき感染症の候補（案）のリストの位置付けや今後の取扱いについての質問に対し（五箇委員）、環境省より、環境省作成のリストとしてではなく、検討会資料として公表される旨の説明があった。

議事（２）モデル事業（案）について

３つのモデル事業（案）について異議等は表明されなかったことから、来年度からの２年間の実施に向けてさらなる具体化等を進めていくこととなった。委員よりは、モデル事業を進めるにあたり、以下の助言があったほか、事務局からの質問に答える形で SFTS の検査目的に応じたサンプルと検査手法の組み合わせの選択等について助言があった。

- 実態把握に加えて、感染ルートを意識した希少種の周りにはいる鳥獣を検査対象とする等、感染症の侵入の予防やリスク管理が重要になる。（前田委員、五箇委員）
- 島嶼等の地理的に分布が限られる希少種の個体群に感染症が万一侵入してしまった場合の壊滅的な影響を低減・回避するための生息域外保全などで、動物園は連携・協力することができる。（橋本委員）
- 免疫付与のためにワクチンを接種する可能性や利用できるワクチンがない場合の開発についても、将来的な課題として検討の余地がある。（岩丸委員、前田委員）
- 国立環境研究所も培養細胞を用いて非侵襲的に実施している感受性の評価は、対象鳥獣種に対する感染症のリスクを知る上で重要。病原体との進化的関係によっては封じ込めか侵入防止かという対策の方向性にも影響する。（五箇委員）
- 死亡野鳥・傷病鳥獣における感染症の実態把握では、アーカイブ化されて各分野の研究機関もアクセスと活用ができるようになれば良いのではないかと。（岩丸委員）
- リスク・マネジメントのあり方に関するワークショップを現場ごとに開催できればよい。（羽山座長）

議事（３）その他

環境省から来年度の予定について説明した。異論等はなかった。

各委員から、広い意味でのワンヘルス・アプローチへのステップアップや、環境省の枠を超えた連携等、今後の事業の展開に期待する意見があった。

以上